

山陰道（須子～田万川）の計画段階評価に関する市長コメント

●概 要

本日、国土交通省中国地方整備局は「社会資本整備審議会道路分科会中国地方小委員会」を広島市において開催された。小委員会においては山陰道（須子～田万川間）の計画段階評価が議題となった。

小委員会では、山陰道（須子～田万川間）のうち須子～小浜間については、産業拠点へのアクセス性を優先したバイパス案が優位であると評価された。また小浜～田万川間については、複数ルート帯案が示され今後アンケート調査が行われることとなった。

【参考・益田以西の山陰道について】

益田以西の山陰道については、別紙（R1.12.5小委員会資料）のとおり益田市から萩市、長門市を經由し下関市で中国道に接続、全国の高速道路ネットワークの一部を形成する重要な路線となる。

鳥取県から山口県までの山陰道の全線が開通することで「山陰と九州経済圏が直結することによる経済活性化」「多発する災害に対し、地域の避難や復興支援に資する道路として、また全国の道路ネットワークの寸断を防ぐ代替道路」など、多くの効果が見込まれる。

●市長コメント

今回の小委員会では、山陰道（須子～田万川間）のうち須子～小浜間については、産業拠点へのアクセス性を優先したバイパス案が優位であると評価され、また小浜～田万川間については、複数ルート帯案が示され今後アンケート調査が行われることとなりました。今回評価された須子～小浜間のバイパス案については、市といたしましても産業・観光面において大きな優位性があると考えており、山陰道（須子～田万川間）の整備に向け大きく前進したことを大変うれしく思っています。

益田商工会議所や石見臨空ファクトリーパーク立地企業連絡会の皆さまには、関係先への要望に格段のご協力をいただき、また地域の皆さまにはアンケート調査で必要性について多くの声をあげていただいたことに改めて感謝申し上げます。さらには関係機関のみなさまには評価を着実に進めていただき厚くお礼申し上げます。

この益田から萩までの間の山陰道は、世界遺産を擁し多くの観光客が来られる萩市と益田市を結ぶ路線であり、萩・石見空港の一層の活性化につながると強く期待しています。

また九州経済圏へのアクセス性が向上することで、石見臨空ファクトリーパークなど企業立地促進への大きな追い風となります。

そのほか、救急搬送の速達性の向上や災害時のネットワーク確保、走行時の安全性の向上など地域の活性化・安全安心に資する多くの効果が見込まれる大変重要な区間です。

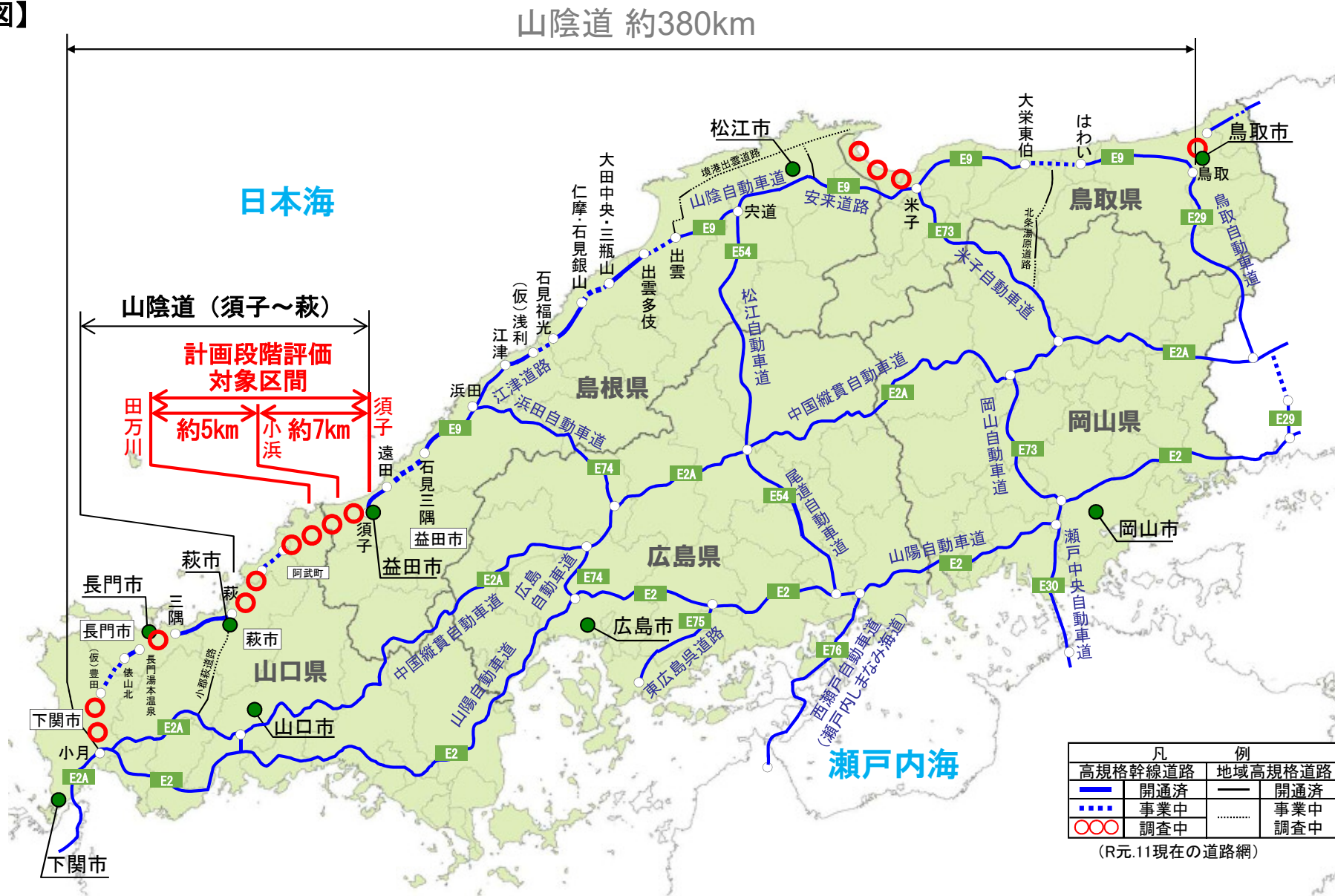
引き続き、この区間が一日も早く事業化され早期に開通するよう、市としても全力で取り組んでまいります。

1-1. 中国地方の高規格幹線道路網

【参考】
 令和元年12月5日開催 令和元年度第1回社会資本整備審議会 道路分科会 中国地方小委員会資料
 (計画段階評価について山陰道(須子~萩)第4回)

○須子~小浜間、小浜~田万川間は、日本海国土軸の一部を担う山陰道(須子~萩)の一部。
 ○島根県益田市~山口県萩市の県境部に位置し、北側の日本海と南側の山地に挟まれた自然豊かな地域である。

【広域図】



凡 例	
高規格幹線道路	地域高規格道路
— (solid blue)	— (solid black)
— (dotted blue)	— (dotted black)
○ (red)	○ (black)

(R元.11現在の道路網)

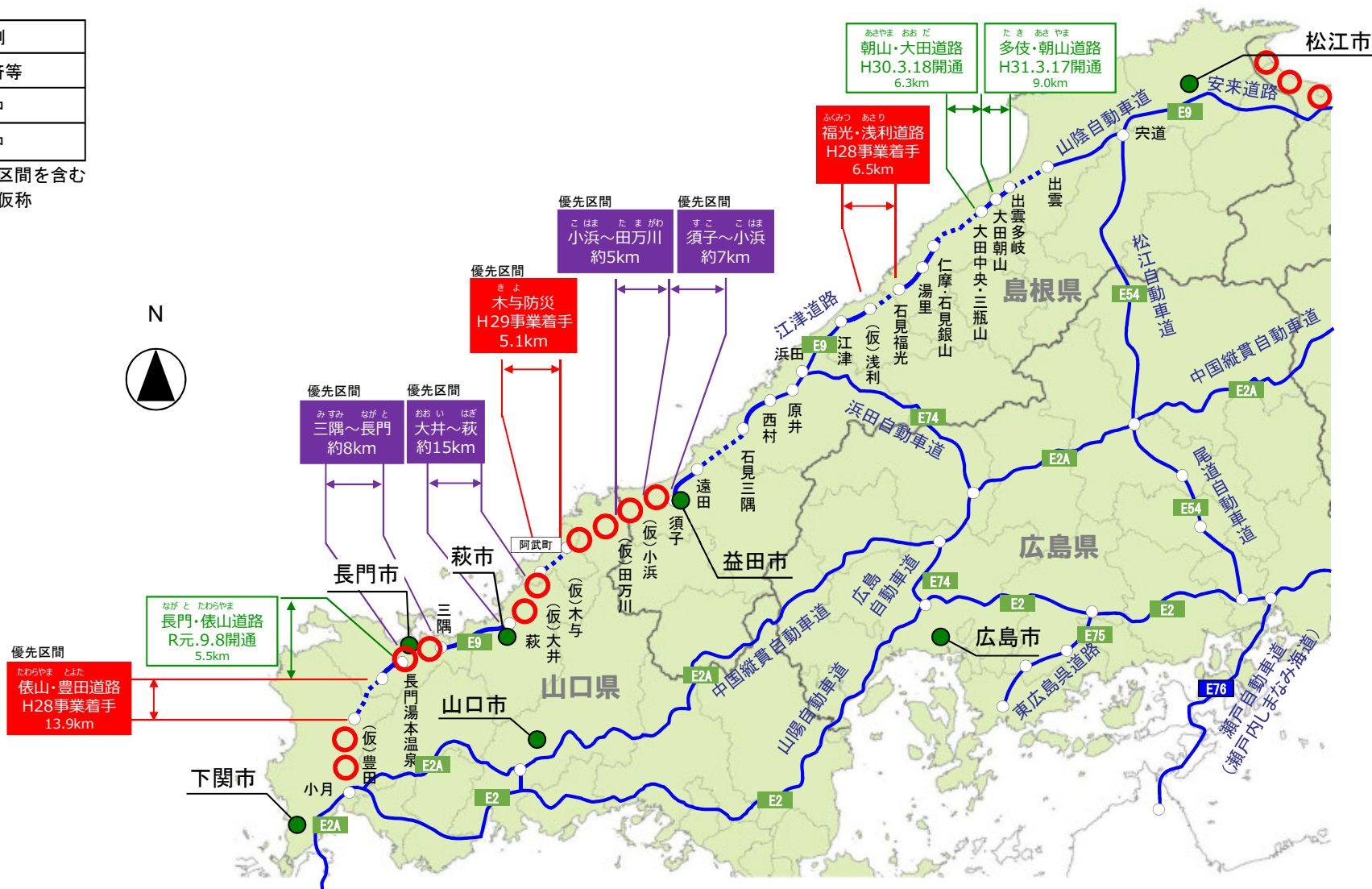
1-2. 山陰道（島根県、山口県区間）の進捗

【参考】
 令和元年12月5日開催 令和元年度第1回社会資本整備審議会 道路分科会 中国地方小委員会資料
 （計画段階評価について山陰道（須子～田万川）第4回）

- 島根県の朝山・大田道路がH29年度、多伎・朝山道路がH30年度に開通。山口県の長門・俵山道路がR元年度に開通。
- 須子～田万川間は、H30年11月に第3回地方小委員会を開催し、須子～小浜間の対策案に関する意見聴取を実施。
- 大井～萩間はH30年11月に第3回地方委員会を開催し、H31年1月に対応方針が決定。
- 三隅～長門間は、H30年2月に第1回地方小委員会を開催し、地域、道路の課題に関する意見聴取を実施。

凡 例	
	開通済等
	事業中
	調査中

※一部当面現道活用区間を含む
 ※事業中のIC名は仮称



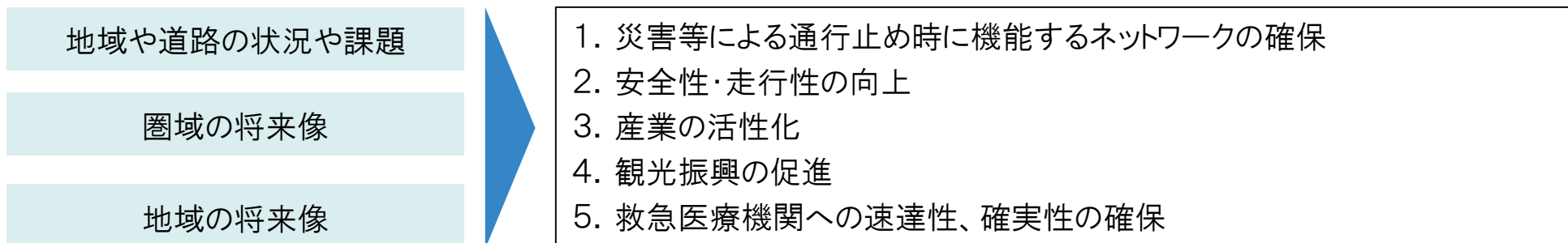
1-7. 政策目標

【参考】
令和元年12月5日開催 令和元年度第1回社会資本整備審議会 道路分科会
中国地方小委員会資料

(計画段階評価について山陰道(須子~田万川)第4回)

■政策目標の設定

■地域の課題や自治体の総合計画を踏まえ、5つの政策目標を設定しこれらの目標を達成するための対策案を検討。



■対策案の検討

【通行止め時のネットワークの確保】 <ul style="list-style-type: none">・通行止め時の代替路が確保されているか。・要防災対策箇所及び洪水浸水想定区域を改善又は回避できるか。	【安全性・走行性の向上】 <ul style="list-style-type: none">・構造不良箇所が改善され安全性、走行性が向上できるか。・死傷事故率が全国平均を上回る箇所の緩和または回避ができるか。	【産業の活性化】 <ul style="list-style-type: none">・交通混雑の緩和と回避ができ、企業活動や農産品輸送を支援する産業拠点への速達性が向上できるか。	【観光振興の促進】 <ul style="list-style-type: none">・交通混雑の緩和と回避ができ、周遊性の向上を支援する観光拠点及び観光地間の速達性が向上できるか。	【救急医療機関への速達性・確実性の確保】 <ul style="list-style-type: none">・交通混雑の緩和と回避ができ、救急医療機関への速達性が向上できるか。・代替路が確保され、確実性が向上できるか。
--	---	---	---	--

○対策案を検討する上でのその他の配慮事項

【生活環境・自然環境の保全と調和】	
【生活への影響】	【工事の影響】
【経済性への配慮】	【維持管理への配慮】



**当該地域の高規格幹線道路の整備方針を検討
(既存の道路ストックの活用も含め、複数の対策案を設定し検討)**

2. 「須子～小浜間」の検討

2.5. 対応方針（案）のまとめ

1) 対応方針（案）

【参考】
令和元年12月5日開催 令和元年度第
1回社会資本整備審議会 道路分科会
中国地方小委員会資料

（計画段階評価について山陰道（須
子～田万川）第4回）

1. 道路整備の必要性

【理由】

政策目標を達成できる道路整備を検討

【政策目標】

- 災害等による通行止め時に機能するネットワークの確保
- 安全性・走行性の向上
- 産業の活性化
- 観光振興の促進
- 救急医療機関への速達性、確実性の向上

- 評価区間には、益田市街地や観光拠点（萩・石見空港）、主要な産業拠点（石見臨空ファクトリーパーク、国営農地）等が集中しており、各拠点へのアクセス向上や速達性向上が課題となっている。
- 国道191号では、事故や災害発生時による代替性の確保が課題となっている。
- 住民、事業所、道路利用者及び自治体などからは安全で災害時に強い道路や、救急医療機関への速達性等が望まれている。

2. 対応方針（案）

ルート帯について【案C：産業拠点へのアクセスを優先したバイパス案】を対策方針（案）とする。

【理由】

- 【案C】は、【案A】【案B】に比べ、全ての政策目標の達成が見込まれる。
- 意見聴取結果においては、産業拠点への速達性の向上等の「道路整備による効果・改善点」の各項目や「配慮すべき項目」について多くの意見が寄せられており、【案C】は地域のニーズにも応えられる。
- また、地域発展のためには企業進出や雇用確保などが不可欠であり、【案C】により企業進出・雇用が期待されるとともに、安心安全、観光活性化についても支援でき、自治体のニーズにも応えられる。
- 【案C】は全ての政策目標の達成が見込め、災害等発生時の代替路の確保やアクセス性、速達性や信頼性・安全性の高い道路ネットワークを確保できるなど、総合的に優れている。

3. その他

- ・ 具体的な道路構造等の検討に際し、景観への影響、自然環境への影響、家屋の移転、工事中的影響、事業費・維持管理費のコスト縮減等にも配慮する。
- ・ また、バイパス整備後に現道に残存する課題について地元自治体と一体となって、交通状況の変化等を勘案しながら必要な対応に努める。

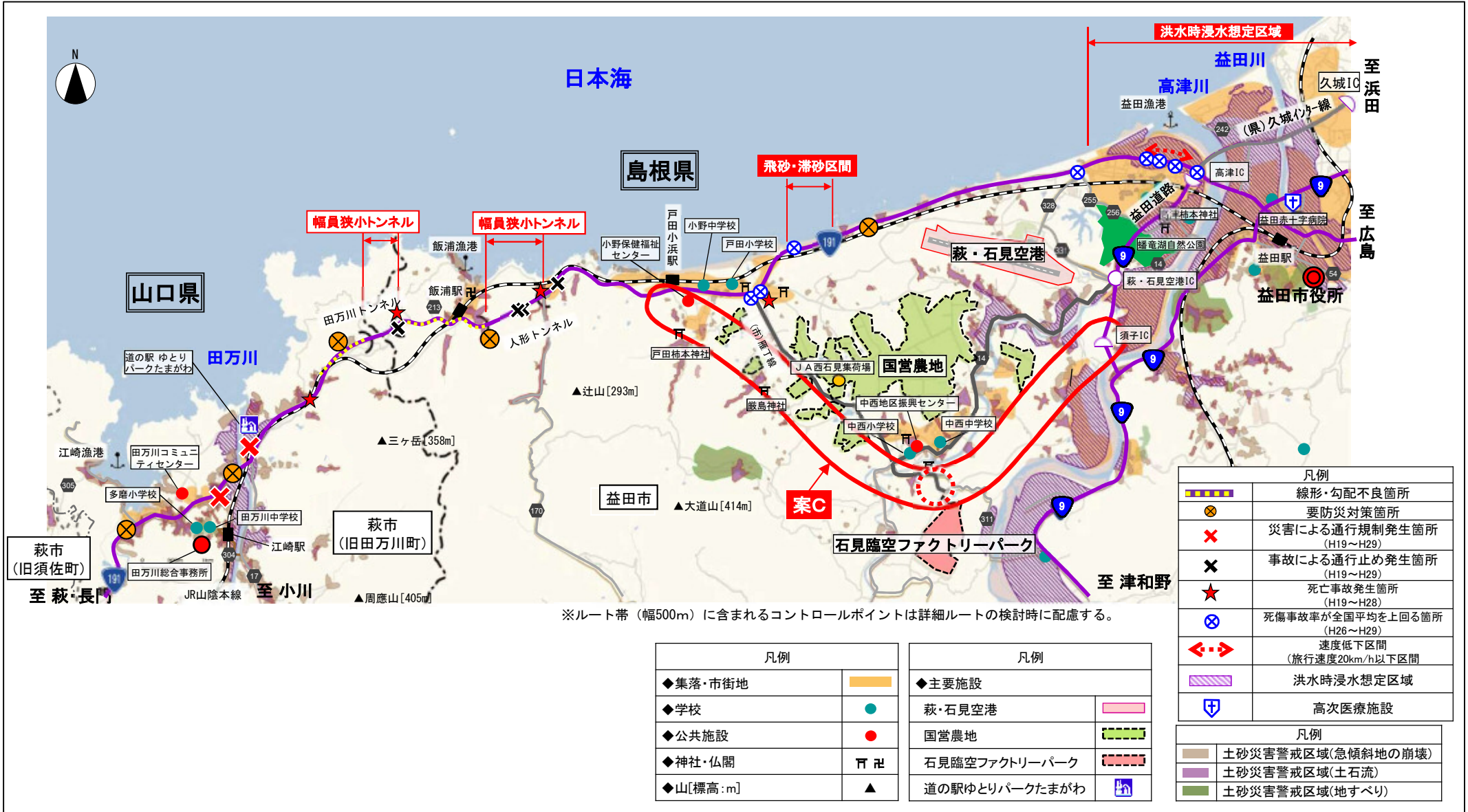
6. 対応方針（案）のまとめ

1) 対応方針（案）

【参考】
令和元年12月5日開催 令和元年度第1回社会資本整備審議会 道路分科会
中国地方小委員会資料

（計画段階評価について山陰道（須子～田万川）第4回）

4.ルート帯



3. 「小浜～田万川間」の検討

3. 1. 対応方針（案）の再検討

1) 対応方針（案）の再検討

【参考】
令和元年12月5日開催 令和元年度第
1回社会資本整備審議会 道路分科会
中国地方小委員会資料

（計画段階評価について山陰道（須
子～田万川）第4回）

○前回現道対策として提案したが、小委員会でのご意見、平成30年7月豪雨災害、意見聴取を踏まえ、バイパス案を含め再検討。

■第3回小委員会での意見(H30.11) ■平成30年7月豪雨(H30.7)

主な意見

- ・現道対策も必要だが、頑健なネットワークとして、山陰道の構築も必要。**小浜～田万川間について、バイパス案を加えた評価を今後検討し、意見聴取すべき。**



出典：第66回社会資本整備審議会基本政策部会資料より



出雲IC付近の国道9号の混雑状況 (H30.7.8)

- 山陽道の通行止めにより、山陰側が重要な**代替路として機能**
- 一方、山陰道未整備区間では、交通量の増加により**渋滞が発生した**

■第2回意見聴取概要(H31.3～R元.6)

第2回意見聴取：須子～小浜間に関するルート帯に関して重視すべき事項について意見聴取を実施。その際、小浜～田万川に関する自由意見も聴取。

主な意見

- ・小浜～田万川間は、**土砂災害の危険性もあるため、代替路の確保**が必要である。【益田市】
- ・**代替路の問題は、須子～小浜間だけではなく小浜以西についても同様である**。早急に当該区間の整備を進めてほしい。益田側から山口方面への緊急出動・応援のためにも重要。【消防】
- ・人形トンネルは幅員が**狭く自転車・バイクの通行もあり危険**である。そもそも道路の構造も良くないので、**別線での整備**をして欲しい。【益田市】
- ・小浜～田万川間は人形トンネル等の幅も狭く、カーブ等もあり大型の車両で運行しにくい。**事故による通行止めの経験**を踏まえると、**別線として整備**してほしい。【バス事業者】
- ・空港を拠点とした観光活性化に向けて、小浜～田万川間についても**現道改良だけでは速達性という観点や代替路の確保という点で問題がある**と思う。**バイパス整備を望む**。【萩市】
- ・須子～田万川間における山陰道の整備は現道改良ではなく**バイパス整備を望む**。ただし、道の駅ゆとりパークたまがわや須佐駅にあるいかマルシェはこの地域の経済面で重要な拠点となっていることから、ICからのアクセス距離が遠すぎると立ち寄り客が期待できず困る。できれば、ICから道の駅へは1km程度として欲しい。【商工会】

⇒小浜～田万川間においても、別線バイパスを求める意見が多いことから、別線バイパス案を含め検討を実施38

3.2. 対応方針（原案）の検討

2) 複数案の設定（ルート帯案）の概要

【参考】
令和元年12月5日開催 令和元年度第1回社会資本整備審議会 道路分科会 中国地方小委員会資料
(計画段階評価について山陰道(須子~田万川)第4回)



※ルート帯（幅500m）に含まれるコントロールポイントは詳細ルートの検討時に配慮する。

- ○ ○ ○ ○ : 【案A】現道の線形不良区間の解消及び要防災対策箇所の対策を行う案
- ○ ○ ○ ○ : 【案B】構造不良箇所の連続区間をショートバイパスで回避し、その他区間を現道拡幅する案
- ○ ○ ○ ○ : 【案C】小浜～田万川間を別線バイパスで結んだ案